

□議員名：吉永 美子

1 私立保育園への支援について

論点	私立保育園に支給される障害児補助金が長年増額されていないことにより、加配保育士の賃金が負担になっているとの声がある。保育士加配補助金の額は実態に合っていると考えているのか。
回答	各私立保育園において、職員の加配が必要となる配慮が必要な子供が増加傾向にあり、保育士不足により職員の加配が困難な中、障害児保育事業の実施に尽力頂いている状況は理解している。しかし、その支援については、他の事業も勘案しつつ総合的に判断していく。

論点	本市では、重度障害児1人について月74,140円の補助だが、山口市ではおよそ倍の月15万円である。実態を把握するため、保育園にアンケート調査できないか。
回答	保育連盟の会議等でも状況を伺いたいと考える。

2 内部統制の充実について

論点	市民に信頼される行政運営を行うには、内部統制の充実が重要である。内部統制の目的を達成するための要素が本市の人材育成基本方針に包含されているのか。
回答	人材育成基本方針に目指すべき5つの職員像を示している。

論点	続けて起きた二つの事案（次男に聴取をしないまま保護廃止を決めた市の対応について裁判所が違法性を認めたことと、市民が職に就き収入を申告していたにもかかわらず収入認定を怠ったうえで返還を迫ったこと）は事実か。
回答	2件とも事実である。

論点	職員の行動指針としてのクレドや職員の誓いを策定している宮崎市のように、市民の安心感、信頼感につながる具体的な取組を本市でも行えないか。
回答	人材育成基本方針に職員の目指すべき職員像を載せているが、本市

	のホームページ上では、市民の目には分かりづらいところもあると思う。今後は市のホームページで、私どもの考えや目的、目指すべき将来像について特出しするなどの情報の啓発を考えている。
--	--

3 子育て支援について

論点	乳幼児健診について、本市では7か月健診の後は1歳6か月健診で11か月も空いている。県内においても取り入れが始まりつつあるが、1歳児健診の必要性はないのか。
回答	健診自体が必要ないとは全く考えていないが、本市では、山口県が乳幼児健康診査マニュアルに1歳前後時期の健診のチェックポイントとして示している離乳食の完了や歯磨きポイント等に関して、そのチェックポイントに焦点を当てた保健事業の開催や相談体制の充実など、1歳児健診の目的とするところをカバーしている。

4 健診やがん検診の受診率向上のための取組について

論点	従業員の健康づくりに寄与しながら、企業のイメージアップにつながる「やまぐち健康経営企業認定制度」の周知と推進についてどう考えているか。
回答	この認定制度の企業を通じて、働く世代の健康増進の自覚と実践につなげ、健康寿命の延伸を図るという趣旨は、本市が現在実施している健康づくり地域職域連携推進事業の趣旨と同じことから、併せてその周知を行っていきたい。

論点	学校におけるがん教育を推進するため、学校に整備されたオンラインを使い、講師に市民病院の医師を活用してはどうか。
回答	（市民病院）オンライン授業の要望があれば、日程調整等を行った上で、当院の医師などを外部講師として派遣し、専門的な知識を生かした授業を行うことは可能であると考えている。 （教育委員会）早速校長会等を通して、各学校に通知していきたいと考えている。

5 児童生徒の教育環境の整備について

論点	普通教室にエアコンが設置されてから約3年、既に設置済みの図書室以外の特別教室（特に理科室）へのエアコン設置の予定はどうか。
回答	市内の全小中学校現場に出向いて、調査した。その中には、議員の発言のように、特別教室の設置についての声もあった。ただ、それと同時に、学校の施設の営繕についての要望もある。教育委員会としては、しっかり考えを持って、実施計画予算要求をしていきたい。

6 糸根公園の整備について

論点	今後、整備される埴生の糸根公園にガラス文化を取り入れる考えはあるか。
回答	ガラス文化の推進に関しては、第二次総合計画中期基本計画の重点プロジェクトの具体的施策に掲げているとおり、本市の特性を生かす事業であるとともに、まちの価値を高める効果的な事業でもある。本市のガラス文化を市内外に発信していくため、糸根公園の施設整備にガラス文化を取り入れることについても、効果的な手法があれば検討していきたいと考えている。